



◆其の八十八
第一次温泉ブーム
in ちくしの

日本人になじみ深い温泉は、「日本書紀」や「風土記」にも記載があります。

二日市温泉(湯町)も長い歴史があり、かつては「次田温泉(すいたのゆ)」などの名称で記録されています。

古くは「万葉集」にも、大宰府長官の相伴旅人(おおとも)のたびと(「次田温泉」で詠んだという歌が載っています。旅人の大宰府在任は、神亀5(728)年から天平2(730)年なので、1300年前には利用されていたようです。



瑠璃子入湯の場面
(「武蔵寺縁起絵図」第3幅より)

平安時代末の「梁塵秘抄(りょうじんひしょう)」には、「次田温泉」利用の優先順位を示す歌があり、「二番は大宰府の高官、二番は観世音寺の僧」といったように、上級官人や有力寺院の僧、武士などが出てきます。大宰府長官は最優先となるので、菅原道真も利用したのではないのでしょうか。

二日市温泉発見にまつわる伝承では、武蔵寺を創建したと伝わる藤原虎麻呂(ふじわらのとらまろ)の娘「瑠璃子姫(るりこひめ)」の病氣治療がきっかけとなっています。

このように、元々温泉は、有力者の療養の側面が強かったようです。その健康問題は、国家や地域の一大事になり得るからです。実際に、兵庫県の有馬温泉には豊臣秀吉が造らせた温泉施設があったのですが、その実態が発掘調査で明らかになってきています。

二日市温泉は、九州の政治・経済の中心地、大宰府や博多に近く、有力者の利用に便利だったのでしょう。ある意味、日本の歴史を陰で支えていた、とも言えるのではないのでしょうか。

問文化財課

